

令和5年度 第1回瀬戸市ICT活用・DX推進協議会
委員からのご質問・ご意見

開催日時	令和5年9月8日（金） ※報告書送付日
開催場所	書面開催
報告内容	資料「瀬戸市DX重点取り組み事項のロードマップ」
委員の意見・質問と回答 →は事務局（情報政策課）からの回答	<p>【岸田委員】 （質問：庁内DXの推進体制）</p> <p>DX推進にあたり、窓口業務や情報発信など地域住民から目に触れるパートについては、混乱やわかりにくさを避ける意味でも全課を通じて異なる思想ではなく共通の思想で取り組むことが重要になってきます。</p> <p>他の自治体では、全庁横断のDXの取り組みについてCDO補佐官のように外部人材を登用して推進するケースもあれば、その支援業務を外部委託し庁外の知見を入れて進めているところもあります。瀬戸市におかれましては、そのようなお考えはありますか？</p> <p>→目下のところ、CDO補佐官の設置等は想定しておりません。しかしながら、ご指摘の通り市民・利用者から見たサービス・提供情報のわかりやすさや見え方の統一性は極めて重要と考えますので、本協議会委員のお知恵やご示唆を大切にしつつ、その点に留意して取り組みを推進したいと考えます。</p> <p>関連して過去の協議会において「DXは業務変革により利便性を享受できる一方で、運用を支えるマンパワーが必要なため令和3～4年度でICTスキルのある正規職員を計2名通年採用し当課に配属されています。今後も、外部人材も含めた体制強化の要請を庁内でしたいところではあります。」との状況報告をいただいておりますが、その後、検討状況はいかがでしょうか？</p> <p>→当該期間中に当課DX推進係に新たに配属された職員は「マイナンバーカードの利活用」「AIチャットボットの回答精度向上」「アプリせとまちナビの刷新」といった本市DXの重要施策の推進に加えて、事務改善の対応施策の発案やICT技術の適用検証において卓越した能力を発揮してくれたと捉えています。外部人材については登用とまではいきませんでした。とりわけRPA適用推進の部分を経験・ノウハウを保有する外部事業者に頼って庁内展開をしているところです。</p> <p>また、「DX推進は一部の職員だけではなく、各職員のデジタル対応力の観点で人材育成が必要」とされていますが、職員向けのDX研修等の取り組みは実施されていますでしょうか？</p> <p>→今年度6月に、各課のDX推進員を少人数グループに分けて研修を兼ねた「DX座談会」を開催いたしました。当課からの一方的なDX情報の共有ではなく、ワイガヤ的な意見交換を通じてDXのしくみ・しかけで解決できる現場課題の掘り起こしを行いました。</p> <p>その中でAI-OCRの活用による事務効率化の要請がいくつか提起され、先ずは当課主導で試行して効率化を果たした事案が出始めました。OCR適用を</p>

通じて当課から原課の担当者に対して関連スキルの伝達を行いつつあり、デジタル対応力の向上につなげたいと考えています。

(質問：生成（系）AI の活用検討)

人材不足の解消や、労働生産性の向上に向けて ChatGPT 等の生成（系）AI を用いた業務改善のニーズが増えつつあり、中部地方では試験運用を始めている他の自治体もいくつかあります。

便利な一方で、個人情報や機密情報の漏洩に繋がらないよう、利用にあたりガイドライン設定や研修なども併せて実施する必要があります。瀬戸市として生成（系）AI を業務に取り入れるご予定やご興味はありますか？

→生成（系）AI はロードマップの重点取組みではないものの、行政実務における利活用については既に本市の庁内各課の関心のあるところと考えます。一方でご示唆の通り、入出力情報の取扱いについて情報セキュリティをはじめとしたいくつかの観点で細心の注意が必要と認識しております。

生成（系）AI の利用においては個人情報の扱いや、取得情報の知的財産権利の保護及び信憑性の確保といった注意喚起をこれまでに庁内で実施いたしました。

(意見：DX 取組みロードマップの R4 実績 R5 計画)

令和 4 年度実績の達成度（例：3 段階評価）や令和 5 年度計画の目標値の記載があると、今後の振り返りがより分かりやすくなるかと思えます。

また、取組み種別も、新しい取組み、注力すべき取組み、継続する取組み、完了・廃止する取組みなどの区分があると評価しやすくなるのではないかと思います。

→取組み事項の達成指標は前年度実績については協議会資料にてお示ししていますが、ご示唆を受けて次年度のロードマップで達成目標の設定や推進事項の重みづけ、完了・継続等の明記等について庁内で議論したいと考えます。

以 上